



しょうしょ

小暑（7日）… 七夕に願いを託します …

園庭の築山のフェンスに沿ってブドウが蔓を伸ばし、青い実をたくさん付けています。これは15年ほど前に、保護者の方からいただいた苗を植えたものだそうです。秋には紫色に色付いて、きっとおいしく食べられると思います。畑やプランターでは、南青山産の野菜が作り始めました。今年は収穫できた順の一つずつ持ち帰っています。採れたての旬の野菜の味は、きっと五感に響く思い出となることでしょう。

<鷹乃学習 たかすなわち わざをならう 7月17日～21日>

小暑の末候は「鷹乃学習」です。春に孵化した鷹の雛が生長し巣立ちを迎える頃だそうです。幼稚園で目にする虫たちは、卵から生まれて、親がいなくても育っていきます。しかし、生態系の頂点に立つ鷹は、飛ぶことや餌を取ることを親から学ぶのです。私たち人間は、さらにそれ以上です。たくさんのごとを社会の中で学ばなければ、生きていけません。その第一歩は、家庭での親と子の信頼関係です。それが土台となります。その上で、幼稚園では、先生の愛情を受け、好きな遊びを見付け、次第に友達と一緒に遊ぶ中で、おもしろさを感じつつ友達との付き合い方を少しずつ学んでいくのです。



親が子どもを守る例は、小さな虫では珍しいのではないのでしょうか。私も先月子どもから教えてもらって、このハートのカメムシ「エサキモンキツノカメムシ」が卵や幼虫を守ることを初めて知りました。健気で愛おしい話ですね。

<新しいスタイルでの誕生会>



年中組、年長組は密を避けるために、遊戯室で学年ごとに誕生会を行いました。私から誕生児への一番のメッセージは、あなたが元気でいられるのは、「奇跡の積み重ね」「有り難いこと」だということです。ですから、誕生日は、お家の人に「ありがとう」と感謝する日だよと伝え続けているのです。

<人に支えてもらっていることを学ぶ>

時折見る「テレビ寺子屋」という土曜日の朝のテレビ番組があります。先週末の講師は、竹下和男さんという、子どもに自分の弁当を作らせる教育活動を推進してきた元校長先生でした。自分一人で弁当を作る体験を通して、自分が一人で生きている訳ではなく、自分が親をはじめとする多くの人に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつことができるという内容でした。どのエピソードも、なるほど！と感動するものばかりでした。幼児にも、家事を一緒にすることや自分でできることは自分でさせるようにすることを通して、ぜひ育てたい心ですね。



年少組は学級ごとに誕生会のお祝いをしました。まだ友達の名前と顔が一致していない子の方が多いと思いますが、誕生児に向けて先生と一緒に「おめでとう」を伝えたり、お祝いの歌を歌ったりしました。先生が見せてくれるお楽しみの出し物もあり、誕生会を楽しみにする気持ちが育まれます。